TITLE:

追悼

AUTHOR(S):

ボッシュ, クリストフ

CITATION:

ボッシュ, クリストフ. 追悼. Pan Africa News 2011, 18(特別号): 6-6

ISSUE DATE:

2011-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/147312>

RIGHT:

Copyright © Pan Africa News.

迷惑をかけないよう配慮したスタイルだったのかもしれない。

伊谷・西田のお二人のスワヒリ語も対照的だった。伊谷さんのスワヒリ語は、多いとはいえない語彙を自在に駆使して、いかにも楽しげに聞き取り調査や会話をすすめるやり方だった。西田さんは、それまでの長期の滞在経験と語学の才を生かした流暢なスワヒリ語で、多くの情報を的確に収集しておられるように見えた。

個性豊かな2人の先人の薫陶を得て、私はトングウェ調査を何とかやり遂げることができたのだと、しみじみ思うのである。トングウェはチンパンジーの調査を支え、マハレの動植物についての多彩な民俗知識を私たちに教えてくれた。調査がすすむにつれて、原野に埋もれるようにして暮らすトングウェの生活の知恵や文化・社会の特性も徐々に明らかになった。私たちはトングウェに魅了され、彼らへの敬愛の念が深まっていった。この敬愛の念が、私たち3人をつなぐ絆になった。

40年間の時代の経緯を思い起こしつつ、西田さんの霊に心から哀悼の意を表したい。

追悼

クリストフ・ボッシュ
マックスプランク研究所

西田利貞教授がお亡くなりになったという知らせを大変な悲しみをもって受け取りました。1999年に彼とマハレで過ごした日々を思い出しました。私は、タイのチンパンジーの狩猟行動と、マハレのそれとの比較研究のためマハレに行きました。フィールドで2ヶ月間をともに過ごし、晩ご飯を一緒にさせていただきました。しかし、この滞在をあんなにも特別なものにしたのは、来る日も来る日もおこなった、チンパンジーについての議論でした。二つの集団の行動の違いについて私は大変な興味を抱き、それを理解したいと、リーフグルーミング、道具使用、社会的地位、そして狩猟戦略について、彼とともに情熱的に何時間もにわたって議論しました。夜ごと、情熱的な二人がぶつけあった情熱的な議論の長かったこと！

(翻訳：伊藤 詞子)

追悼

リンダ・F・マーシャント
マイアミ大学

西田利貞教授のマハレ山塊（タンザニア）におけるチンパンジー研究に私が初めて触れたのは、1974年のウェンナー・グレン会議をもとに編纂された、『大型類人猿』（1979）の中の一章でした。彼の章の質と深さは、チンパンジー（*Pan troglodytes*）の社会構造に関するパイオニア的洞察を含んでいました。その時には、この本の続編となる『大型類人猿の社会』（1996）で、一緒に仕事ができる幸運に巡り会えるとは思っていませんでした。『大型類人猿の社会』は、1994年に別のウェンナー・グ

レン会議を西田教授とウィリアム・マックグルー教授が開催し、この会議をもとに刊行されることになったものです。これらの2つの会議の間の20年間と、その後の17年の間に、トシは、有能なフィールドワーカーの証しとなる、多数の論文を発表しました。

晩年の数年間は、長期にわたる病気との格闘を続けながら、それに屈することなく、今年の終わりに刊行予定の、『湖岸のチンパンジー：マハレの自然史と文化』（ケンブリッジ大学出版局）を完成させました。私はこの本のいくつかの章を読む機会に恵まれました。そして、メールでの何度かのやり取りの中で、次のようにコメントしました。

「トシ、読ませてもらった章は本当に楽しくて、私は幾度となく、まるで自分が今マハレにいて、『あなたの』チンパンジーたちの生活を観察しているような気分になりました。特に家族の話は気に入りました。チンパンジー家族の一員であるということがどんなものか、あなたが本当に上手に捉えているところでは声を出して笑ってしまいました。」

2011年の2月23日に来た彼からの返事には、「…あなたの言葉には、とても勇気づけられます」、とありました。彼はこの本の完成のために、時間との闘いに挑んでいました。寂しくなります。しかし、彼は我々と共にあることでしょう。彼が最後の努力で残してくれた、彼の生涯をかけたマハレ山塊のチンパンジーに関する知識と、チンパンジーたちへの愛とともに…。

写真のトシは、彼のお気に入りの二人の「アルファ雄」と一緒にいます—フランス・ドゥヴァールとビル・マックグルーです！これは、「HOPE-GM 講座 霊長類の心と社会」の助成を受けて、松沢哲郎教授の下で霊長類研究所が2010年3月に開催した、国際シンポジウムの時のものです。

(翻訳：伊藤 詞子)

追悼

リチャード・W・バーン
セントアンドリュース大学

1980年にセントアンドリュースでスコットランド霊長類研究グループの集会が行われた際、ちょうど西田利貞先生は、当時スターリングにいたビル・マックグルーのとき